

スピーカーアキュライザーの導入(19)
ーデジタル音源の比較(1)ー

1. 始めに

前報(18)までは、アナログ音源とデジタル音源の比較を行ってきましたが、今回はデジタル音源間の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

試聴音源はバッハのミサ曲ロ短調に固定し、デジタル音源のCD、DVD、放送録画、STAGE+から選択します。

CD

ARCHIV POCA-2009/10

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

1961年録音

DVD

TDK TDBA-0013

ゲオルグ・クリストフ・ピラー指揮ゲヴァントハウス

2000年7月 ライプツヒ聖トーマス教会にて収録

放送録画

BS103 2017年9月25日放映

ヘルベルト・ブロムシュテット指揮ゲヴァントハウス

2017年6月 ライプツヒ聖トーマス教会にて収録

STAGE+

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスト

2023年4月 シャペル・ロワイヤルにて収録

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団 (アルバム)

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスト
(アルバム)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

CDは47研4716、DVDと放送録画はDMRUBZ1、STAGE+はPC経由で再生します。その詳細は次のとおりです。

CDは47研4716→インフラノイズCCV-5→インフラノイズDAC-1、DVDと放送録画はDMRUBZ1→SONICA DAC、STAGE+はPC→SONICA DAC経由で再生します。スピーカーアキュライザーとヴォリュームアキュライザーはすべての音源再生ルートに共通ですが、CDとDVDと放送録画はデジタルアキュライザーDACU-500が、STAGE+はUSBアキュライザーUACU-700を経由しています。

リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団のCDは、1961年の録音ですが、合唱の分離などは今一つのところもありますが、弦楽器の質感やソリストの歌唱も意外にソフトであり、新鮮で通奏低音やティンパニも明晰です。演奏は、リヒターらしいオーソドックスなバツハでこの時代の定番の演奏とっていいと思います。

ゲオルグ・クリストフ・ピラー指揮ゲヴァントハウスのDVDは、教会の高所からの演奏で、オフマイク気味の弦楽器や木管の柔らかい響き、オンマイクのソリストのよく通る歌唱、少年合唱団の教会内の響きなどが聴き取れます。20年以上前の収録ですが、明晰さが戻ってきたようです。

バツハ音楽祭での90歳になったブルムシュテット指揮ゲヴァントハウスのBS103録画は、DVDと同じく教会の高所からの弦楽器や木管の柔らかい響き、ソリストや合唱の教会内部への残響、通奏低音の音階の明瞭さなどが聴き取れます。

ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスツの最新のSTEGE+の収録は、STAGE+を楽しむ(28)で報告しており、円熟した温かみのある演奏ですし、フランスの古い教会の音響特性と馴染んでいます。最新の収録だけあって音質的にも優れています。

リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団のSTEGE+のアルバムは、詳しい解説はありませんが、ソリストや合唱団は、上記のCDと同じです。演奏はCDと同一とってよいと思いますし、音質もCDに劣ることはありません。

ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスツのSTEGE+のアルバムは、録音年代は不明ですが、演奏スタイルは最新の収録と似ており、古楽器の質感や生き生きとした合唱やソリストの声はオフ気味ですが、教会のような響きの良いところの収録の雰囲気が出ています。

以上のようにSTAGE+は古いアナログマスター時代のリヒターの演奏から最新の画像付きのガーディナーの収録まで幅広く提供していることは有難いことです。

4. まとめ

収録年代と音源の種類と再生ルートが異なる音源が、一様にスピーカーアキュライザー導入以降、音質が向上し、古い音源もフレッシュな印象で聴けるようになっていきます。スピーカーアキュライザーの他、CDとDVDと放送録画はデジタルアキュライザーDACU-500が、STAGE+はUSBアキュライザーUACU-700が、それぞれ効果的に働いているようです。

以上